

# 基本的施策に対する質問

## 【前置き】

おはようございます。生活者ネットワークの木下安子です。

私たちは、市民が主体のまちづくりを進め、市民自治を実現するために、日々の生活の中で感じる課題を市民とともに話し合い、一人も置き去りにされることのない、持続可能なまちづくりを目指して活動しています。その視点から基本的施策に対する初めての質問をさせていただきますが、その前に、市の新型コロナウイルス対応について意見と要望を述べさせていただきます。

## 【新型コロナウイルス対応についての要望・意見】

今回、安倍首相から全国一斉休校の要請が出て、日本中が大混乱に陥りました。特に子どもたちは、学校という、学習権が保障される場、日中を安全に過ごす居場所を失うこととなりました。

自治体によっては、いち早く開校、給食の継続を決めたところや、低学年を対象に開校を決めたところがありました。市内でも特別支援学校は学校の開放を早い段階で決め、学童は2日朝から開設しましたが、市でも当然把握している、親が働いていてもユーフォーや放課後等デイサービスを利用している子どもの親からは「困った」、「どうしよう」という声が寄せられました。

また、都立高校入試で不合格だった中学生は受験を控えて不安な日々を過ごしていますし、児童館、CAPS や図書館も閉められてしまったため、多くの中学生は家にこもってゲームをしたり、最も良くないと言われているカラオケに集まったりしていると聞きます。これで本当に感染予防の効果は期待できるのでしょうか。

さらに、市も把握しているように、市内でも5人から6人に1人が生活困難層で、中には給食が頼りの食生活を送る子どもがいます。栄養をしっかりと摂取できなければ、免疫が落ちて感染するリスクも高まるでしょう。

子どもたちは学校から解放されて一見楽しそうに見えるかも知れませんが、突然日常を奪われ、居場所や友人との関わりを失い、大人たちの戸惑い、不安や苛立ちを感じ取って傷ついている子もいます。早い段階から心のケアができるよう、感染防止に万全の備えをした上で、学校や児童館、CAPSなどを開放し、給食の提供も含め、子どもの権利条約の精神に立った、子どもの最善の利益を第一に考えた対応の充実を求めます。

特に、前回の市長選で市民党を名乗っておられる長友市長には、市民生活の実態を、大和田教育長には子どものことをもっと知っていただき、万一の時にも、一番の弱者である子どもたちの最善の利益のために、迅速な独自判断ができるように備えていただくことを、強く要望いたします。